

— ロボットを使った歩行リハビリを進めて参ります —

鈴鹿病院は神経や筋肉のご病気のお患者さんを対象に、ロボットを使ったリハビリテーションをはじめます。ロボットと言っても鉄腕アトムやドラえもんのようなお患者さんの意志に関係なく動くものではありません。リハビリの時にお患者さんに取り付けて、体を動かしやすくする機械だと思っていただければと思います。導入したものは、ロボットスーツ HAL と呼ばれ、今後複数のメーカーから同様の機種が出てくるものと思われます（漫画で言えば、ガンツに出てくるパワードスーツに近いです）。

リハビリの方法は、お患者さんの体に足を動かしやすくする機械を取り付けて、20~30分歩いてもらうものです。もちろん、体調に合わせて休憩をはさみながら行います。また、転ばないように装置を着けてもらいます。体の動きをロボットスーツが補助してくれるので、スムーズに歩く感覚を取り戻していただきます。リハビリを繰り返し行うことで、普段の生活で歩ける距離や時間が延びる効果があります。

なお、ロボットスーツ HAL によるリハビリは保険適応となっておりますが、どの病気にどれくらい効くのか細かなところまではまだわかっていません。歩行がどうして改善するのかもよくわかっておらず今後の研究が必要で、このリハビリは研究的な側面を含む医療だと考えていただいたほうがよいと思います。

欠点もあります。病状によりリハビリできるお患者さんが限られること、取り付けに時間がかかること（エヴァンゲリオンみたいに一瞬で装着できるにはほど遠いです）、副作用がみられること（薬と同じです。リハビリによる筋肉痛、電極取り付けによるかぶれ、機械とのこすれ、など）、などです。

鈴鹿病院は他の国立病院機構の病院同様、収益を考慮する必要のない病院ではありません（そういう病院は今の日本にはないと思います）。収益を考慮しないと新たな医療資材が手に入らなくなったり、病院が存続できなくなったりします。ロボットスーツによるリハビリの導入は赤字をきたす可能性もあるのですが、難病医療の拠点病院として導入に踏み切りました。このリハビリは現状の治療薬同様、病気の原因となっている神経や筋肉を直接治すものではないかもしれませんが、しかし、歩行が改善することが期待でき、今後普及を進めて参りますので皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

国立病院機構鈴鹿病院
臨床研究部 南山 誠



HALを用いた歩行訓練の様子 「HAL®」は脳・神経・筋系の機能低下で身体を思うように動かせなくなった方の機能改善治療を行う「ロボット治療機器」として注目されています。